

## 平成 22 年度と平成 25 年度の T E S 試験問題の集計・採点上のミスと協会の措置について

平成 22 年度の「繊維に関する一般知識」問 7 の C と平成 25 年度の「家庭用繊維製品の製造と品質に関する知識」問 8 の A で集計・採点上のミスがありました。

平成 22 年度「繊維に関する一般知識」問 7 の C

問 7 次の文の中で、正しいものには『1』、間違っているものには『2』を解答欄に記入しなさい。

C. 織物の防しわ性は、同じ糸を使って同じ密度にした場合でも織物組織の違いにより異なる。平織と斜文織では、平織の方がしわになりやすい。

協会の措置：設問が不適切であったので、全受験者を正解扱いとした。

平成 25 年度「家庭用繊維製品の製造と品質に関する知識」問 8 の A

問 8 次の A～E の文章で、①②の両方が正しい場合には『1』、①②のいずれかが誤っている場合には『2』、①②の両方が誤っている場合には『3』を解答欄に記入しなさい。

A. ①縫い目のスリップは、たて・よこ糸相互の摩擦係数の大きい織物や過度に減量加工されたポリエステル織物で起こりやすい。

②縫い目の強さは、縫い糸によって変わるが、ステッチの大小、縫い糸張力には依存しない。

協会の措置：集計・採点上では『2』を正解としているが、①②ともに誤りであるので正しい答えは『3』である。

集計・採点上のミスがありましたことを心よりお詫び申し上げます。